

「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所
〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757
電話連絡先 0282-22-7079(増田) Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp

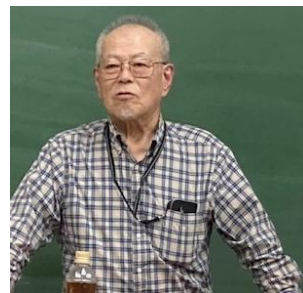


218号
2025年11月28日発行

近隣「九条の会」交流会が開催される 今後も連携を！

11月8日（土）に近隣「九条の会」交流会が小山九条の会主催で行われました。この会は昨年も行われたようですが、太平山麓九条の会に声かけられたのは、今年が初めてでした。参加していたのは、小山九条の会、下野市九条の会、栃木革新懇と小山革新懇です。

初めに、小山市在住の井上隆夫さんの東京大空襲、学童疎開の話がありました。井上さんは現在88歳。当時は小学三年生だったといいます。東京大空襲の



時は、おばあさんと上野の山を目指して逃げたが、逃げる人が多く、上野の山にはたどり着けなかったこと。幸い実家は火災を免れたが、辺り一面焼け野原だったことを話されました。その後、福島県西山温泉に学童疎開。そこでは、親友が亡くなるなどの経験やとてもひもじかったことなどが話されました。

その後、各会から、活動の様子や課題等について、報告がありました。会報をだしたり、講演会を開催したり。各会、いろいろな活動を重ねていました。後継者の育成、若い人への働きかけが課題となっているようです。課題等についてどうするかなど話題を深める時間はありませんでしたが、各会、同じような課題を抱えていることが理解できました。今後も連携を深めていくことを確認して会を閉じました。

県民ネット企画 「戦後80年企画『戦争写真展』 12月5日～8日

～栃木から平和を考える～ 会場：栃木県総合文化センター第1ギャラリー

私たちの会も参加している「戦争法の廃止と立憲主義の回復を求める栃木県民ネットワーク」の主催で、平和を訴える写真展が開かれます。今回の写真展は、戦後80年を迎えたこの時期に、再度戦争について、平和について考えてもらおうという趣旨で企画されました。会場が宇都宮で、ちょっと遠いのですが、買い物がてらにでものぞいてみてください。

写真展のほかに関連企画もあります。詳しくはチラシをご参照ください。

12月5日（金）18時15分から 太田うるおう弁護士による「沖縄戦争と南西諸島の要塞化」のお話
12月6日（土）11時から 小松宏生さん「広島被爆体験」15時から毛里且枝さん「宇都宮空襲の証言」
12月7日（日）10時から金城美幸さん「パレスチナ問題を考える」14時から上野和子さん「沖縄疎開船対馬丸沈没事件を語る」

- ◆スタンディング 12月9日（火）市役所前 19日（金）カワチ・イオン前 15時から
- ◆スタッフ会議 12月11日（木）4Fくらら 22日（月）2Fくらら 13時30分から

戦後八十年、繰り返す歴史、再び！



「資源もないのに世界戦争やって、極悪ナチスと同盟して、300万人の国民が殺されて、拳銃に原爆を二発も落とされて、戦後もずーと占領軍を置かれてカツアゲされまくっているのに、それでまた防衛費倍増とか言って軍国主義を目指しているんだから、日本は学習能力ゼロの国だよ。」(まりなちゃん・旧ツイッター・2023年)

戦争の悲惨さ、戦争が重大な人権侵害であることは、周知の事実である。人間なら誰も戦争などしたくないと思うが、問題はやりたい人々がいるということである。

戦後八十年、日本は辛うじて平和憲法に守られては来たが、今は危険水域に達している。世界でも右派の勢力が伸長、著しく民主主義や人権が脅かされる状況である。ウクライナに侵攻したロシアは、停戦に応じる気配もなく、独で徴兵制が復活と聞けば、NATO がいよいよ軍事行動の準備に入ったのではと思う。エマニュエル・ドットは、すでに第三次世界大戦は始まっていると言い、わが日本の高市政権では、NATO に協力するのは時間の問題だと思われる。

先の大戦のように、何も知らされない国民にとって、隠されていたことが表に出た時には、すでに手遅れということである。故に構図としては、八十年経っても日本の本質は何も変わっていないことだ。戦争に突き進んだ勢力は、今も政権の中枢に居座り続け、日本を再び戦禍へと導こうとしている。だがこれらは、日本だけではない。

しかし、平和を願う多くの国民が、八十年何も努力をして来なかった訳ではない。隠されている不都合な真実を明らかにし、情報力の強化と共有を図り、世界中の非戦の輪を繋げるリングを構築していくこと。少なくとも、非力な我々でも、無知を排し、政権の動向を監視し、悪を告発し、戦争を回避する輪に協力することは出来るはずだ。私たちが人間なら、決して諦めないし、力強く生き抜いて行くと信じたい。

大原瑛理子 (ペンネーム) 記

九条の会 声明を発表！

高市政権になって、改憲の動きが急になっています。そのような情勢を踏まえて、九条の会が声明を出しました。



以下の文はその抜粋です。

高市政権は、明文改憲を、本命の9条改憲を主軸に据えて強行する方針を打ち出しました。自民党と維新の会の連立政権合意に、「憲法9条改正」と「緊急事態条項」に関する「両党の条文起草協議会」を設置すること、「緊急事態条項」については「2026年度中に条文案の国会提出を目指す」こと、「衆参両院の憲法審査会に条文起草委員会を常設する」ことなどを明記したのです。「安保3文書の前倒し改定」、「反撃能力(敵基地攻撃能力)をもつ長射程ミサイル」の整備、陸上展開の着実な進展と、「原子力潜水艦」と見られる「次世代動力を活用した潜水艦の保有を推進」するなどの大軍拡のスビートアップを図り、それを支えるべく防衛費のGDP比2%への増額を2年前倒しし、補正予算で今年度中に実施する方針を打ち出しました。「防衛装備移転3原則の運用指針の緩和」、「武器輸出を認める5類型」の撤廃も狙っています。いわゆる「スパイ防止」法に関しては、2027年度末までに「対外情報庁」(仮称)と情報要員養成機関の創設、「インテリジェンス・スパイ防止関連法制」の年内検討開始と早急な成立、内閣情報調査室の「国家情報局」への格上げによって、「スパイ防止」の名目で市民に対する監視体制を強化して、戦争国家体制をより一層固めようとしています。高市政権が衆議院議員の比例定数削減案を臨時国会に提出し成立させようとしていることも見逃せません。高市自維政権の登場で、いま、日本の「戦後」、憲法が岐路に立っています。憲法9条にとどまらず、人権、民主主義が危機に晒されています。高市政権の企てに危惧を持つ全ての市民が声を上げましょう。全国各地の市民が一斉に立ち上がり、これに抗する世論を巻き起こし、高市政権の危険な策動を阻止し、はねのけましょう。九条の会もその先頭に立つことを決意します。